



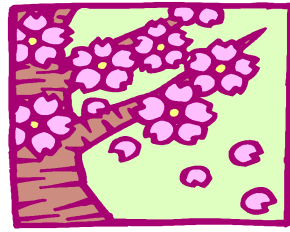
阪神ネジ、桜がない所でバーベキューをしました！！

月刊



ちよとつ猛信

イノシシは阪神ネジのトレードマークです。



第18号



皆様お久しぶりです！！ちよとつ猛信最新号のお届けです。桜が咲く春と言えば出会いの季節ですよ。出会いと言えばねじの世界では日常的には訪れています。別々に生まれたボルトとナットが出会い、これが常に相性ぴったりなのです。良く考えたらこれは凄いことですよ。ということで今回はどのボルトを使ってもナットに通すことが出来る秘密を探るため、ねじの生い立ちから振り返ってみたいと思います。

人とネジとの出会い

棒切れに刺さった巻貝を回転して外したことが人間とねじとの最初の出会いとされています。

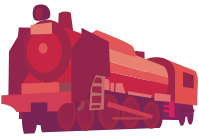


ねじの製作開始

1500年前後、ボルト・ナットが本格的に作られるようになりました。しかし、当時はボルトに合わせてナットを作るため、そのナットに通るボルトは1つしかないという状態でした。

ねじ切り旋盤誕生

1800年頃、イギリスのヘンリー・モズレイがねじ切り旋盤を開発したことにより精密なねじを切れるようになりました。そのお蔭で別々に作ったボルトやナットを組み合わせることが可能になりました。



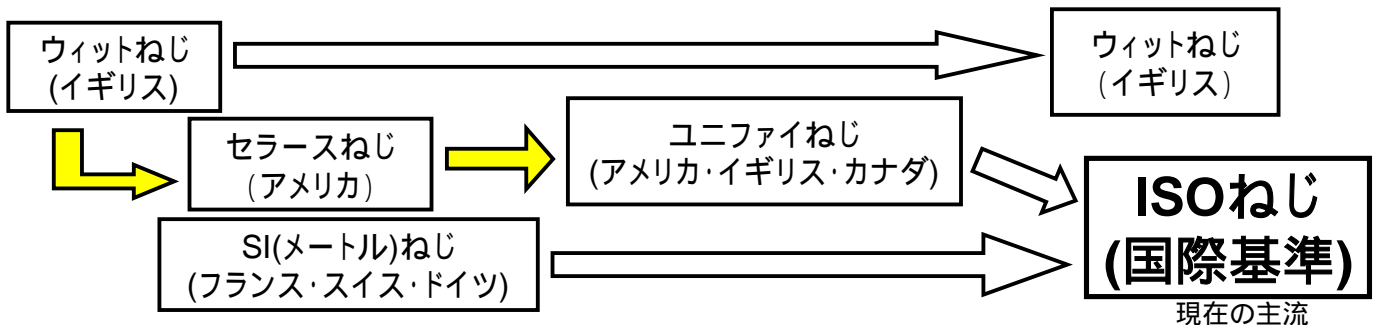
ネジの大量生産開始

イギリスの産業革命が進むにつれて多数のボルト類が必要になると工場にて一括生産するようになって来ました。しかし、メーカーごとに使用するネジのピッチや寸法が異なる為大量生産を行うメリットが活かせずにいました。

規格の誕生！

モズレイの弟子であるジョセフ・ウィットウォースが大量生産のメリットを活かす為共通の規格を作ろうという活動を始めました。それがイギリスで一般に受け入れられ世界で初めてのネジの規格である(ウィットウォースねじ)が作られました。

ちなみに規格が出来てからの流れを見てみると…



各地で誕生した規格を統一しようとする動きになっています。



国内で生まれたボルト君と外国で生まれたナットちゃんが仲良くなれるようになってきてるんですね

今回のちよとつ猛信は中野達也と北村玲子が担当いたしました。

(C)Abi-Station.com

阪神ネジ株式会社 広報部

TEL 06-6458-3491

FAX 06-6458-8777

E-mail press@hanshin-neji.com